

平成21年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

| | | | |
|--|---------------------|------------|-------------------------------|
| 事業名 | 専修学校職業体験講座 | | |
| 法人名 | 社団法人 茨城県専修学校各種学校連合会 | | |
| 学校名 | | | |
| 代表者 | 会長 八文字 敏宏 | 担当者 連絡先 | 事務局長 難波 浩美 TEL029-221-8771 |
| 1. 事業の概要等 | | | |
| <p>○経緯・背景</p> <p>本事業は、茨城県内の専修学校が、それぞれの職業教育の特色を生かし、各学校において前年度と同様に体験型の講座を実施した。</p> <p>当初、県央の水戸市と県南の土浦市の2か所の会場において、参加専修学校がブースを設け、中学生・高校生に参加してもらおうという会場形式も検討した。</p> <p>この場合は、一度に複数の職業体験ができるという大きなメリットがある。</p> <p>しかし本県は南北に長く、居住地によっては当該会場まで足を運ぶのにも容易でないところも少なくない。</p> <p>更にここ数年少子化の影響により、公立高等学校の統廃合が相次いでいる。</p> <p>そのため、昨年度同様各専修学校での実施であれば、中学生・高校生の参加が比較的容易ではないかと協議がまとまった。</p> <p>実施時期も、夏休みの短期間と限定せず、各専修学校により幅広く設定し、8時間で1カリキュラムを実施する講座もあれば、12時間で1カリキュラムを実施するという、参加者が職業を理解するのに十分な時間が確保できるよう設定した。</p> <p>参加者には、自分の興味のある分野や仕事について、どのような勉強をするのかまた、どのような資格が必要なのかを実際に話を聞いたり、実習をしたりして肌で感じてもらうようにした。</p> <p>身近なことから説明にはいり、ものづくりの大切さや就労観を養ってもらい、職業意識の醸成や勤労意欲の啓発推進をすることとした。</p> <p>前年度も、参加者及び進路担当者からも、実際に体験できてよかったという感想が数多く寄せられていたことを踏まえ、どの講座も生徒にとって職業に対する説明ばかりでなく、実習時間にかなりな時間を割くように計画することとした。</p> <p>○特徴</p> <p>講座の基本構成は別紙のとおりであるが、最低4時間×2日間(8時間)の実習をとり入れた特色ある体験型の講座とした。</p> <p>実施日時を各学校によって変えることにより、複数の講座に参加することも可能とした。</p> <p>特に、服飾分野、工業分野、商業分野、文化・教養分野と幅広く講座を開設し、昨年度実施のなかったトリマーや犬の訓練といったカリキュラムを増やした。</p> <p>参加専修学校は、14校・20講座となり更に参加しやいようにした。</p> <p>また、製パンの講座のように、実際に店頭で立っての販売実習を行うことにより、仕</p> | | | |

事の内容がより身近なものとなるよう、実施専修学校がそれぞれにカリキュラムに工夫を凝らし、中学生・高校生の職業意識の醸成や就労観育成に寄与するものとした。

○事業の実施

事業の実施にあたっての役割分担は、実施委員会及び事業実施委員会を設けて、昨年度の総括を行い企画・実施にあたった。

事務局に於いて、教育委員会の後援を得るため、書類作成や高校教育課への事業内容の詳細な説明を行うため高校教育課と複数回面会し、スムーズな連携を図れるようにした。

県高校教育課担当官より、高等学校校長会や進路指導主事部会等で職業体験講座開催について告知してもらい、高等学校教員並びに高校生の講座参加を呼び掛けた。

また、事業実施委員会では、体験講座を実施することにより、どのようにすればその職業について分かりやすくかつ、興味を持ってもらえるかも検討することとした。

特に、講義ばかりに傾いてしまわないように、実習時間を十分とり入れ、資格ばかりでなく職業全体の事が少しでも理解できるよう考慮した。

実施期日も、できるだけ重ならないように調整し、複数の体験講座を受講できるように調整し、ひとりでも多くの中学生・高校生に参加してもらえるようにした。

なお、広報にあたっては、高校教育課よりの連絡と並行して、各専修学校広報担当者が手分けしてポスターを持参し、中学校・高等学校を訪問し、職業体験講座の趣旨説明し行い参加を促した。

○事業の概要

専修学校の機能の特質を生かし、高校生の職業意識を持った自主的な進路選択のための機会として実践的な職業体験講座を実施し、職業に就くために必要な知識や基本的な技能について体験を通じて具体的に理解し、職業意識の向上を図ることを目的とする。

参加専修学校は、当然のことながら自校の宣伝とならぬよう注意を払い、実施分野の全体像を学習してもらうことを心がけた。

そのうえで、その職業に内在するさまざまな点や基本的技術及び知識について、漠然としたとらえ方からより具体的なとらえ方ができるきっかけとして有効に活用してもらうことをねらいとした。

事業実施にあたり、茨城県教育委員会の後援を得、高校教育課にも趣旨説明に出向き、本体験講座の理解協力に努めた。

そのうえで、高等学校校長会や進路主事部会に於いて、高校教育課担当官より体験講座事業の趣旨説明をしてもらい、理解・協力をもとめた。

また、中学生・高校生の参加を促すため、ポスターを作成し高等学校等に掲示してもらうことにより、実施会場・講座内容の周知をすることとした。

参加者から、アンケートをとり講座が有意義なものであったか、どのような職種に興味があるのか等も検証した。

| | |
|---------|---|
| 開設講座数 | 20 講座(昨年度 12 講座) |
| 参加専修学校数 | 14 校(昨年度 12 校) |
| 受講者数 | 206 人(昨年度 175 人 31 人増) (内訳:中学生 17 人 高 1 生 13 人 高 2 生 24 人 高 3 生 147 人 保護者 1 人 教員 1 人 既卒者 3 人) |
| 開催期日 | 夏休み及び土日曜日・祝日(7 月から 12 月の間) |

2. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座の実施

実施専門学校が、それぞれに学校の特色を生かし、中学生・高校生に職業体験型の実習を行った。

各講座とも、2日間から4日間で実施し、最低8時間の体験講座を実施した。

実習を主に行い、実際に希望職業について、肌で体験してもらった。

講座に参加した中学生・高校生の様子をみると、真剣に取り組んでおり、自分の興味ある分野ということもあるが、集中して実習を行っていた。

詳細別紙のとおり。

| | 講座名 | 講座概要 | 開催日 | 受講者数 |
|-----|--------------------|--------------------------|-----------------|------|
| 1. | 介護体験教室 | 車いす体験・高齢者疑似体験・介護テクニックを学ぶ | 9月6・19日 | 6人 |
| 2. | 自動車整備 | エンジンの分解・整備体験 | 9月6・19日 | 16人 |
| 3. | コンピュータ実習 | プログラミング・ポスター作成 | 9月6・19日 | 8人 |
| 4. | メイク・ネイル・エステ | カットの理論・ハンドマッサージ等の体験 | 9月6・19日 | 20人 |
| 5. | 事務のお仕事体験講座 | 経理事務について、コンピュータを用いて体験授業 | 9月6・19日 | 22人 |
| 6. | 建築を楽しもう | 3D-CADを使って簡単な住宅設計・建築工事体験 | 11月14・21日 | 8人 |
| 7. | 専門職の体験講座 | AEDの使用体験・アロマ体験菓子作り体験 | 8月12日 | 11人 |
| 8. | パン屋さん体験講座 | パン作り・ベーカリーでの接客体験 | 7月27・28日 希望日 | 7人 |
| 9. | バイクの整備に挑戦 | バイクのメンテナンスを通じ環境・安全の習得 | 8月6・7日 | 18人 |
| 10. | 自動車塗装に挑戦 | 自動車塗装を通じカラーリング及び色彩感覚の体験 | 8月19・20日 | 12人 |
| 11. | 自分の車は自分で整備 | 自動車整備の体験授業 | 8月26・27日 | 20人 |
| 12. | グラフィックデザインの技術職業を学ぶ | デザイン用パソコン・ソフト操作の体験授業 | 8月1・19日 | 13人 |
| 13. | ゲームプログラマーの技術と職業を学ぶ | ゲームプログラミングの基本を学ぶ | 8月1・19日 | 10人 |
| 14. | ペット業界を学ぶ | シャンプー体験・ドックトレーニングの体験授業 | 8月4・5日 | 8人 |
| 15. | IT資格チャレンジ講座 | 情報処理に関する基礎知識を学ぶ | 8月10～12日 | 8人 |

| | | | | |
|-----|-----------------------|---------------------------|----------------|----|
| 16. | ゲームプログラミング チャレンジ講座 | ゲームプログラミング作成 を体験実習 | 8月4～7日 | 8人 |
| 17. | ファッション業界に関 する技術を学ぶ | パソコン・手芸を併用しシャ ツの製作 | 8月22・23日 | 3人 |
| 18. | 車のエンジンを学ぼう | エンジンの仕組みを体験 | 11月8日 12月6日 | 1人 |
| 19. | Webプログラミング | NETプログラミングとHTML の基礎を体験 | 11月8日 12月6日 | 2人 |
| 20. | 楽しく学ぶ保育実技 | 作る遊び・音楽遊び・乳児保 育実技の体験 | 11月8日 12月6日 | 5人 |

②その他

昨年に引き続き、2回目の実施となった。

前回同様、体験型の実習を取り入れ、各自が希望する分野の講座に参加してもらうこととした。教科書やパンフレットを使っただけでは、職業に対するイメージも漠然としたものになってしまいがちである。その点、カリキュラムの大半が実習を行うという事により、その希望する仕事がより具体化して見えたのではないかと思う。

アンケートに於いても、実習に取り組む生徒たちの姿が印象的であった、と書かれており、いかに体験することが大切かということが分かる。

専修学校は、職業教育を主たる目的としている観点から、職業に対する意識付けをすることが重要である。

高校生が職業選択をする場合、職業意識の醸成が自主的に図られていることが特に大切となる。こうした観点から、職業選択のための様々な情報を的確に伝え、職業に関して具体的な理解をしてもらうための機会を増やすことは意義深いことである。

職業体験の場を設けることで、職業選択におけるミスマッチ防止に役立てていくことが責務である。

3. 事業の成果・評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況・評価について

中学生・高校生の職業意識の向上及び就労感の育成、将来の進路選択の判断材料を提供する機会として、各人の志向・適正等に応じた体験型の職業講座を実施した。

キャリア教育という観点からも、就労観・勤労観および職業に関する全体像を把握し、より具体的に理解することができるよう目標を設定する。

職業を表面的に捉えるのではなく具体的・実践的に捉え、それを基に高校時代に準備すべきことや、明確な目標設定を行う事が重要となる。

それにより、仕事に対してのミスマッチや短期間での離職を減らし、体験することにより自分の個性や性格に合った職業選択ができるようにサポートすることが大切である。

昨年度に続き中学生・高校生が職業体験講座に参加することにより、ものづくりの大切さや職業意識の醸成という面で少なからず役に立ったのではないかと思われる。

講座の分野も服飾からコンピュータ・自動車整備といったものづくり分野や美容・トリマー等技術を体験するといった中学生・高校生のかなりなニーズに対応できたのではないかと思う。

参加した生徒も、実際に興味のある職業の内容について、かなり理解できたのではないかとおもう。

このように、職業体験講座への参加をとおして、職業意識の向上や多様化している進路選択に関し、参加中学生・高校生及び中学校や高校の先生方に対して、少なからず情報の提供ができた。

特に中学生・高校生には、職業の具体的な仕事内容が理解しづらいため、体験することによって職業に対する意識を高めることができたと思われる。

昨年度に続き今年度も体験型の講座を多岐の分野にわたり実施することにより、キャリア教育というものの上に於いても、職業意識の醸成や就労観の育成という面でも、中学生・高校生に対して良い機会を設けることができたと思う。

○アンケート結果(詳細別冊事業報告書)

(受講者満足度)

・職業体験講座に参加して良かったですか?(回答数 206 人)

大変満足 148 人(72%) 満足 42 人(20%) 普通 14 人(7%) 不満 2 人(1%)

理由として、

- ・普段できない貴重な体験ができた。
- ・今後の進路選択に役立てたい。
- ・楽しく体験でき、将来の仕事についてよく考えてみようと思った。
- ・仕事に対する興味がわいてきた。
- ・一度体験することで、希望する仕事の内容がよくわかった。

等のアンケート結果を得た。

・職業体験講座に参加して、将来の仕事を考える上で役に立ちましたか?

はい 198 人(96%) いいえ 2 人(1%)

(中学・高校教員満足度)

・職業体験講座に参加して良かったですか。(回答数 19 人)

大変満足 12 人(63%) 満足 5 人(26%) 普通 2 人(11%)

その理由をあげてもらくと、

- ・普段できない事が体験できてよかった。
- ・まとまった時間の講座は生徒のためになる。
- ・職業とその学ぶべき内容が理解できたと思う。
- ・職業の説明は、高校の教員にも聞かせたい。
- ・進学に関する内容は授業でできるが、専門的学習は外部から受けるのが理想である。
- ・体験することによって、技術・知識が身に着くことがよい。
- ・生徒の意識付けに大変有効であった。

といった意見があり、体験型を取り入れた中で、十分な職業についての説明時間も設けることができた。そのため参加した生徒は、じっくりと将来の仕事に関して理解する時間があつたのではないか。

職業体験講座に参加して、生徒が将来の仕事を考える上で役にたったかとの質問に、95%以上の教員が答えている。

来年も講座参加を希望するかとの質問にも、95%以上が参加を希望すると答えている。

以上の調査結果については、平成 22 年 2 月 10 日(水)に開催した第 2 回事業実施委員会に於いて、分析・検討を行った。

どの講座に参加した生徒も得に実習になると、目を輝かせ一生懸命に取り組んでいたということであった。

当初計画では、全分野出席者合計は、352人であった。開設講座により、受講者をあり確保できないところもあった。

しかし、少人数であっても参加者にとって非常にためになった講座であったようである。

やはり、ものづくりという観点からも、参加した生徒に実際に体験させることによって、その職業がより身近なものになるようである。

職業の説明に終始するより、そのなかでうまく体験型の実習をとりいれるということが、職業意識の醸成ということからもよかったのではないかと思う。

職業選択をするうえでの判断材料の一つとして、具体的に各自の興味ある分野の職業体験の機会を提供できた点が成果としてあげられる。つまり、表面的なことだけでなく、各業種における基本技術の重要さや実体験を通じての面白さなどを知ってもらう事が出来たようである。

また、仕事に就くということは人と関わることとなるので、高校時代から心がけるべきことを改めて認識してもらう機会ともなった。

今年度で2回目の職業体験講座の実施となったが、当初より専修学校の広報活動ではないかとの認識をもたれてしまうことがあった。

しかし、実際に講座に参加した高校の教員や保護者からは、生徒の参加も当然のことであるが、進路担当者も積極的に参加し職業理解をして、進路指導に役立ててもらいたいという意見も聞いた。

②次年度以降における課題・展開

昨年に続き2回目の事業実施となった。講座実施専修学校14校、講座数20講座と昨年より2校・8講座増やし充実をはかった。しかし、講座によっては参加者の少ないところが出てしまった。

周知する時間の問題もあったが、高等学校等にまだまだこの事業が浸透していないということもわかった。

しかし、参加した生徒・保護者や高等学校の教員からは、職業理解を深めるのに非常に良い手段であると評価されている。

この事をふまえ、中学校・高等学校進路指導教員と連携を深め、各参加専修学校が分担して、ポスター・チラシ等を中学校・高等学校へ持参し、キャリア教育の重要性・就労観の育成の必要性をまずは高等学校等の進路指導関係者に理解してもらうことが大切だと思った。

そうすることにより、ひとりでも多くの参加者を集め、若年者の職業意識の醸成にすこしでも役に立てるような講座としていきたい。

こういった事業では、継続することが大変重要であり、複数年続けていくことで認知されるものである。

昨年度同様、今年度も参加者や高等学校等の担当教員からは、非常に高い評価をえられた。ぜひ、これからも続けて実施していただきたいとのアンケート結果もある。

よって、次年度以降も、連合会独自で実施できるよう、現在部会を立ち上げ検討中である。

今年度の実施を踏まえ実施内容をさらにより良いものに検討していくことが必要である。